

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 米物価動向とパウエル議長などの発言に注目

2022年1月10日

5日に公表された12月14日、15日開催分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において、早期利上げの可能性が示唆されたことで、市場では早ければ3月にも利上げをスタートするとの期待が広がっています。

この場合、年内4回の利上げを実施する可能性が広がっていることに加え、積極的な引き締め姿勢の結果、これまでの量的緩和政策(QE)で膨れ上がったバランスシートの調整が、年内にも始まるのではとの期待にもつながっています。ちなみに前回リーマンショック時の量的緩和政策では、利上げが開始された2015年から、バランスシートの調整スタートまで約2年かかっています。量的緩和終了から利上げまでも前は1年超かかっていますので、3月に量的緩和が終了し、利上げがスタートし、年内にバランスシートの調整が開始されると、相当早いペースという印象になります。

FRBがこうした急速な金融引き締めに向かっている背景には、雇用回復の本格化と、著しい物価上昇があります。インフレターゲットの対象であるPCEデフレ率は最新11月分で前年比+5.7%、同コアデフレ率は+4.7%と、ターゲットである+2%を大きく上回る状況となっています。FOMC議事録ではPCEデフレ率について、今年の年末までに+2.1%まで下がるという見通しを示しています。それだけしっかりと引き締めを行い、物価の安定を目指す姿勢を示したものと見られています。

今後の物価動向についての注目が集まる中で、来週12日22時半に12月の米消費者物価指数(CPI)が発表されます。CPIはインフレターゲットの対象ではありませんが、水準は違うものの、変化具合は同系統の指標であるPCEデフレ率と相似しており、発表がPCEデフレ率よりも早い場合、市場ではCPIをより重要視する傾向があります。

前回11月のCPIは前年比+6.8%と1982年6月以来の高水準を記録しました。食品とエネルギーを除いたコアCPIは前年比+4.9%と、こちらは1991年6月以来の高水準でした。原油高の動きもありガソリン価格が前年比+58.1%の急上昇となっており、全体を押し上げました。食品は家庭用、外食ともに大きく上昇し、全体で前年比+6.1%高となり、こちらも物価高に寄与。ただ、中古車・トラックの+31.4%、新車の+11.1%と自動車関連の大きな価格上昇もあって、食品とエネルギーを除いたコアでも高い上昇率となりました。エネルギー関連を除いたサービス価格は+3.4%と、水準的にはかなり高いものの、全体よりも低めに出ています。ただ、物価全体の約3割を占める住居関連費用が+3.8%まで上昇してきており、今後の物価高継続を意識させる格好となっています。

今回のCPIも前回同様にかかなり高い水準が見込まれています。ただ、前回EIA(米エネルギー情報局)調査の全米全種平均ガソリン価格が前月比で3.2%の上昇を示していたのに対して、今回は2.6%の低下と、エネルギー価格の上昇に一服感が出ています(今年に入ってまたもう一段上がっていますが)。同調査での価格を前年比でみると前回(2020年11月と2021年11月)が+61.1%に対して、今回(2020年12月と2021年12月)が+50.7%となっており、少し抑えられています。ただ、水準的には依然相当高い水準だけに、全体を押し上げる動きがありそうです。住宅市場の活況さも継続で、住居関連費用の価格拡大も見込まれるだけに、全体的な強さは継続すると見込まれます。

事前予想は前年比+7.1%、同コア前年比+5.4%とさらに大きく上昇見込み。この流れは

PCEデフレータにも影響するとみられ、PCEもさらなる上昇が見込まれます。事前予想通りもしくはそれ以上の数字が出ると、3月の利上げに向けた期待感がもう一段強まり、ドル買いにつながる可能性があります。

来週もう一つ重要なイベントが、11日のパウエルFRB議長による上院銀行委員会での再任指名公聴会、及び13日のブレイナード理事による副議長指名公聴会です。

今年の利上げ再開に向けて上院での公聴会という公式の場でどのような姿勢を示すのかが注目されます。パウエル議長は前向き姿勢に力強く転じた背景が注目されるどころ。ブレイナード理事に関しては、FOMCメンバーの中でもハト派（景気回復を重視し、緩和政策を志向）として知られており、FOMC全体がタカ派（物価上昇を警戒し、引き締め政策を志向）に転じた印象が強い中で、どのような姿勢を示すのかが注目されます。ブレイナード理事ですら前向き姿勢が見られるようだと、市場の利上げ期待がもう一段強まると見込まれます。

山岡和雅 | bu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。